

ごあいさつ



経営管理委員会会長
竹村 敬三



代表理事理事長
川崎 宏

平素は、私ども滋賀県信用農業協同組合連合会（愛称、「JAバンク滋賀信連」）に対し、格別のお引き立てをいただき誠にありがとうございます。

このたび、当会への理解をより深めていただくために、令和3年度版ディスクロージャー誌を作成いたしました。ご一読いただければ、幸いに存じます。

我が国の景気は、新型コロナウイルスの収束に向けた事業活動の開始により、持ち直しの兆しがある反面、一部の業種では依然として、感染者数が高止まりしていることもあり、回復の見通しが立ちづらい状況が続いているところです。また、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う資源価格の高騰等により、経済への下押し圧力も受けています。

金融情勢については、年明け以降にかけて米国を中心にインフレーションを背景にした利上げにより、金利が上昇しました。また、日米金利差の拡大等の影響もあり、ドル円相場が数年ぶりの円安水準をつけるなど、景気への悪影響が懸念されています。

一方、農業情勢に目を向けると、我が国の農業は、外食産業の冷え込みによる米の消費低迷や過剰在庫によって米価の下落基調が続いているほか、農業就業人口の減少と農業従事者の高齢化に歯止めが掛からない状況にあります。そうした中、スマート農業の活用が進んだことや、2050年カーボンニュートラルの実現を目指して、政府により「みどりの食料システム戦略」が策定されるなど、農業を取り巻く環境は急速に変化しているところです。

こうした状況のもと、JAグループ滋賀では令和3年12月の滋賀県JA大会において「持続可能な農業・地域共生の未来づくり」が決議され、めざす姿の実現に向けて他連合会と連携強化を図りながら、様々な経営環境の変化に対応するべく、持続可能なJA経営基盤の確立・強化に向けた取組みを一層推し進めているところです。

さて、令和3年度は、第15次中期経営計画（令和元年～3年度）の最終年度として取り組みました結果、当会におきましては所期の目標を上回る成果をあげさせていただくことができました。このことは、ひとえに会員ならびに利用者の皆さま方の絶大なるご理解とご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

引き続き、目標必達に向け、役職員が一丸となり取組んでまいりますので、皆さまの一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年7月